

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2024年11月14日
東証プライム（4368）



目次



I. 2025年3月期 第2四半期 決算概要

上席執行役員 伊藤 裕之

II. 事業の概況

代表取締役社長 杉田 真一

- ライフサイエンス事業
- 電子材料および機能性化学品事業

III. 2025年3月期 業績予想

代表取締役社長 杉田 真一

IV. 質疑応答

I. 2025年3月期 第2四半期 決算概要

FUSO CHEMICAL

2025年3月期 第2四半期 決算概要



(単位:億円)	当期実績	前年同期比			期初計画比			修正計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	347.5	271.3	+76.2	+28.1% ↗	316.0	+31.5	+10.0%	340.0	+7.5	+2.2%
営業利益	81.4	55.8	+25.6	+45.9% ↗	50.5	+30.9	+61.3%	72.0	+9.4	+13.1%
経常利益	79.4	62.4	+17.0	+27.3% ↗	51.0	+28.4	+55.9%	73.5	+5.9	+8.1%
当期純利益	56.0	42.8	+13.2	+30.8% ↗	34.5	+21.5	+62.6%	50.5	+5.5	+11.1%
償却前営業利益	118.4	83.6	+34.8	+41.6% ↗	87.5	+30.9	+35.4%	109.0	+9.4	+8.7%
1株当たり 当期純利益	159.0円	121.6円	+37.4円	+30.8% ↗	97.8円	+61.2円	+62.6%	143.2円	+15.8円	+11.0%

償却前営業利益：半期としては過去最高を達成

セグメント別売上高・営業利益【前年同期比】



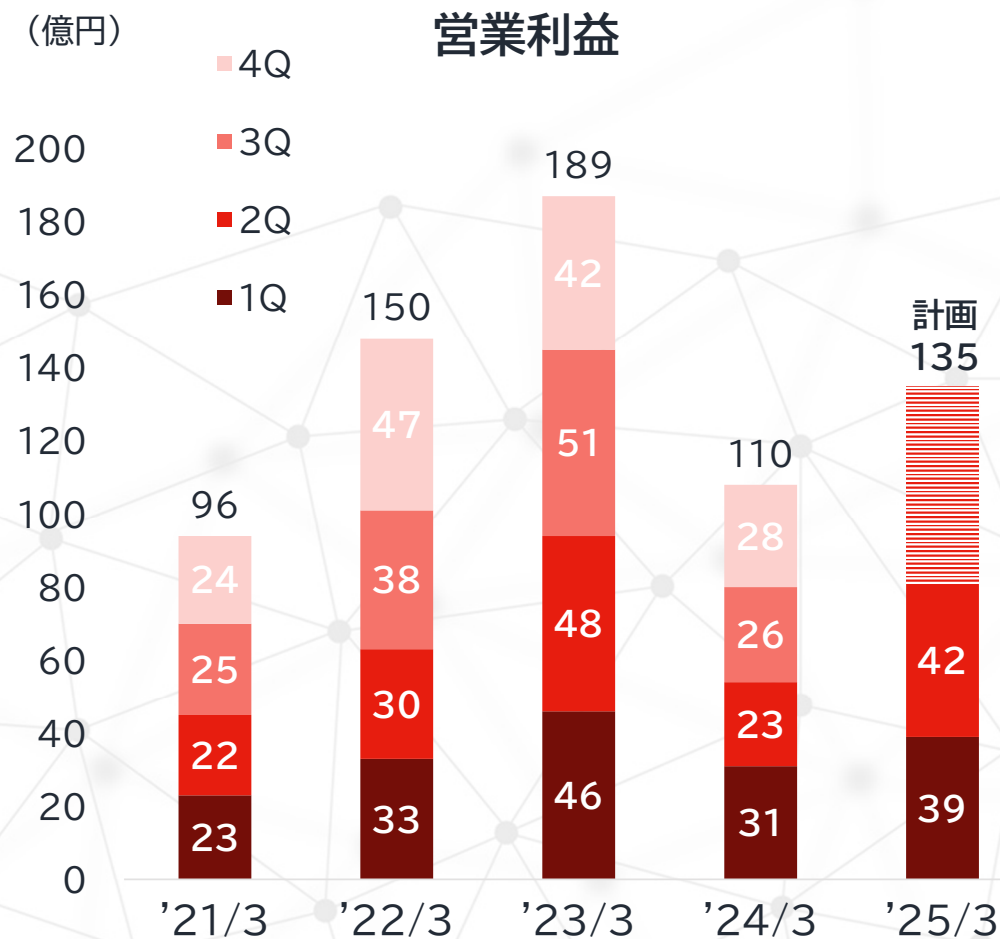
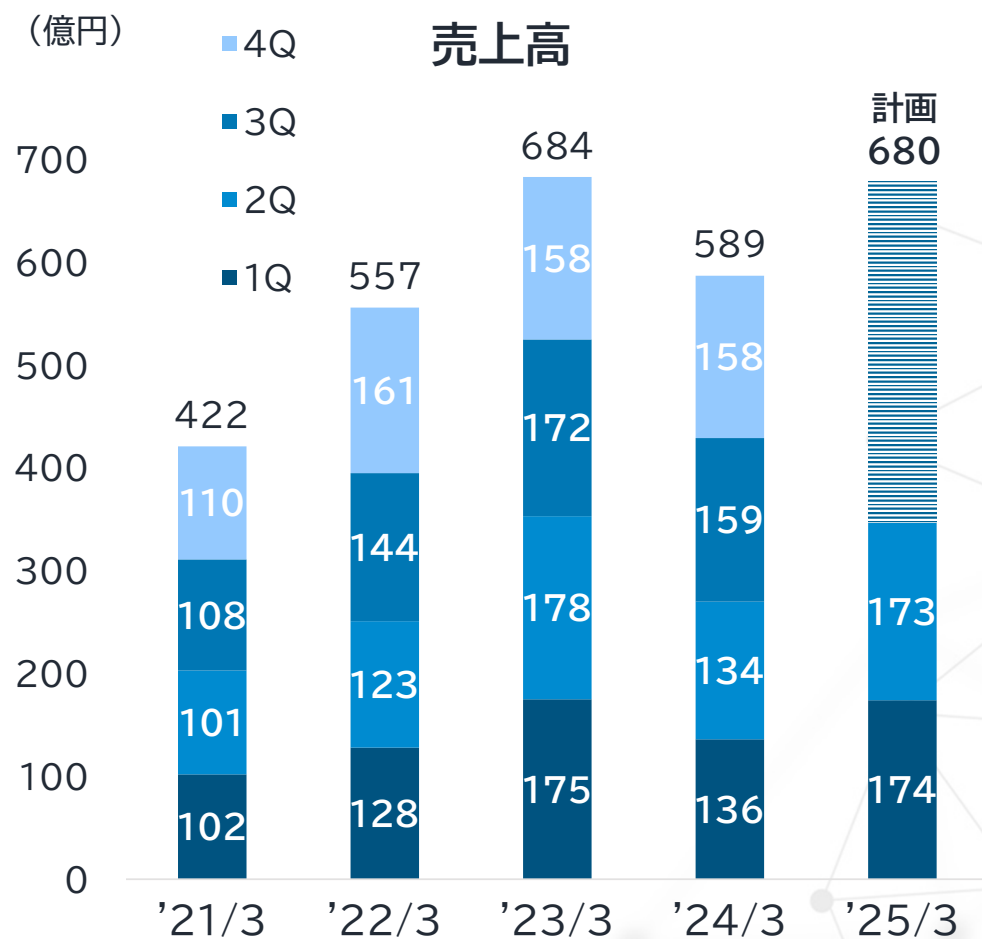
(単位:億円)		当期実績	前年同期比		
			前期実績	増減額	増減率
■ ライフサイエンス事業	売上高	186.6	169.7	+16.9	+10.0% ↗
	営業利益	27.4	32.7	△5.3	△16.3% ↘
■ 電子材料および 機能性化学品事業	売上高	160.8	101.5	+59.3	+58.4% ↗
	営業利益	65.1	33.3	+31.8	+95.7% ↗
(調整額)		△11.1	△10.2	△0.8	—
営業利益(全社)		81.4	55.8	+25.6	+45.9% ↗

2025年3月期 四半期別業績



(単位:億円)	'25/3月期 1Q	前年同期比		'25/3月期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	174.3	+37.8	+27.8%	173.2	+38.3	+28.4%
営業利益	39.1	+7.1	+22.4%	42.3	+18.4	+77.4%
経常利益	42.9	+5.6	+15.1%	36.5	+11.3	+45.2%
四半期純利益	28.8	+4.3	+17.5%	27.2	+8.9	+48.6%
償却前営業利益	57.2	+15.4	+37.1%	61.1	+19.3	+46.1%
1株当たり 四半期純利益	81.8 円	+12.1 円		77.2 円	+25.2 円	

四半期別業績推移

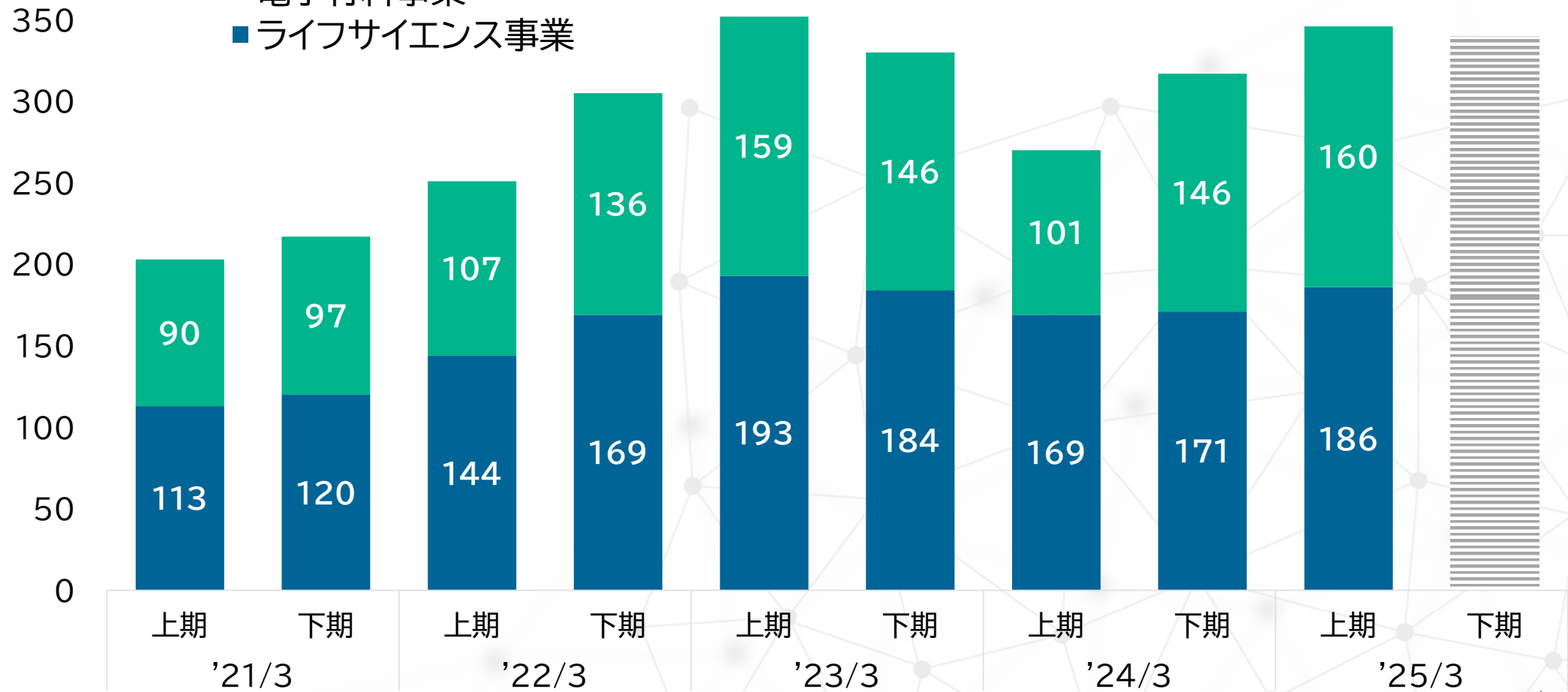


セグメント別推移【売上高】

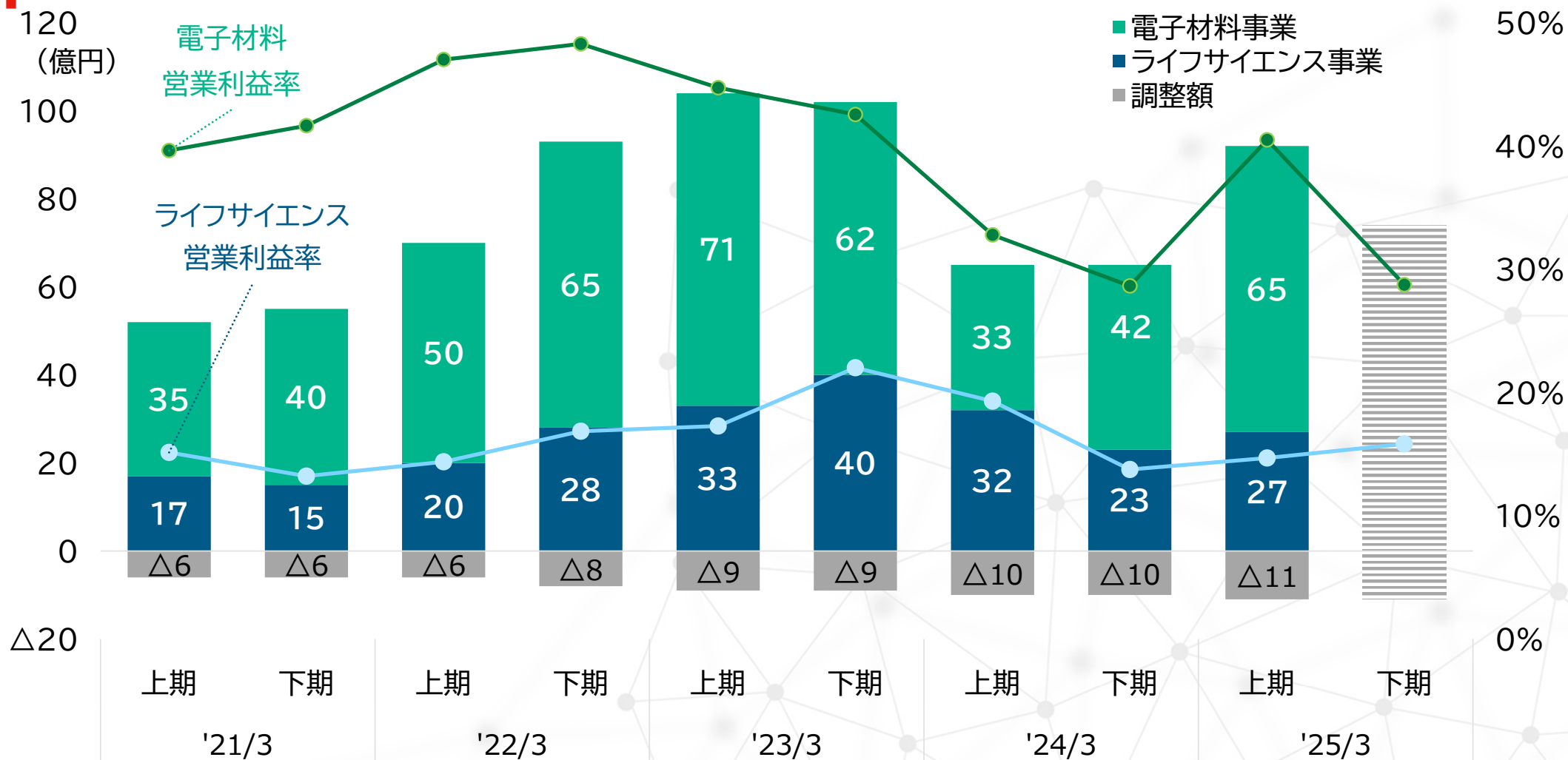


400
(億円)

- 電子材料事業
- ライフサイエンス事業



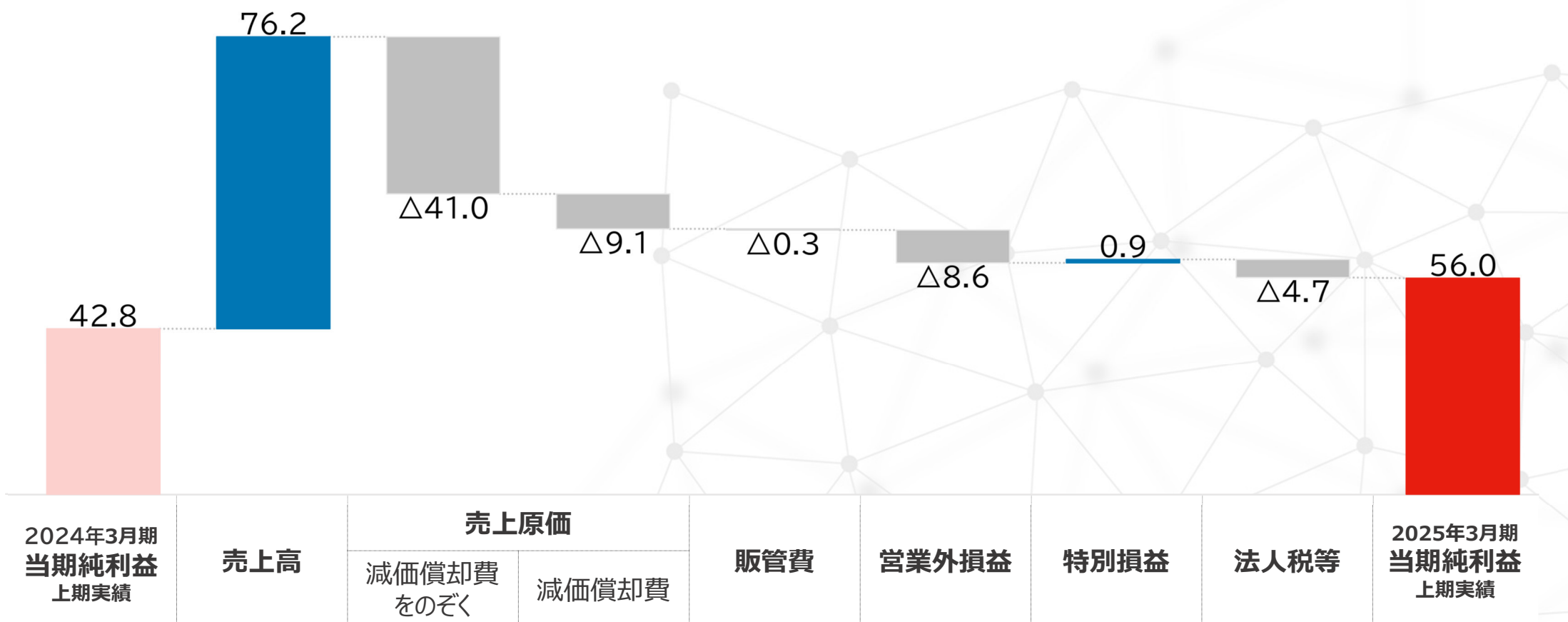
セグメント別推移【営業利益】



2025年3月期 第2四半期 当期純利益増減要因



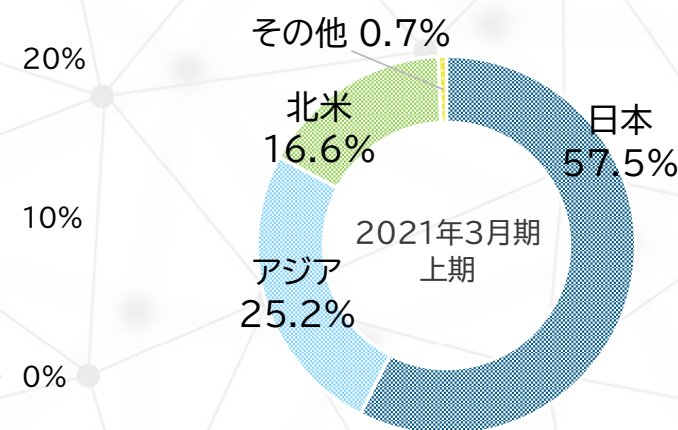
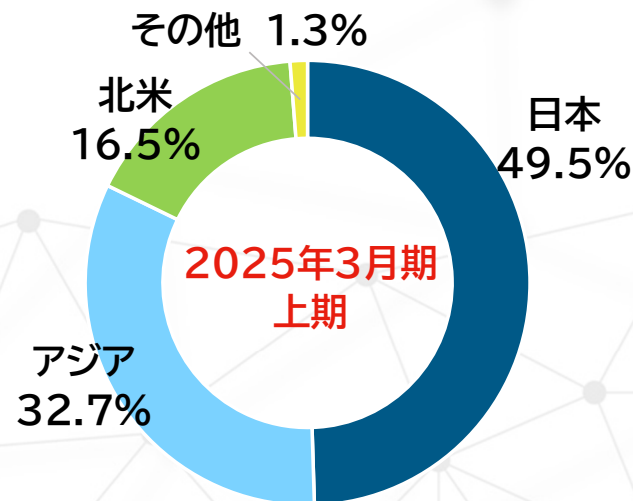
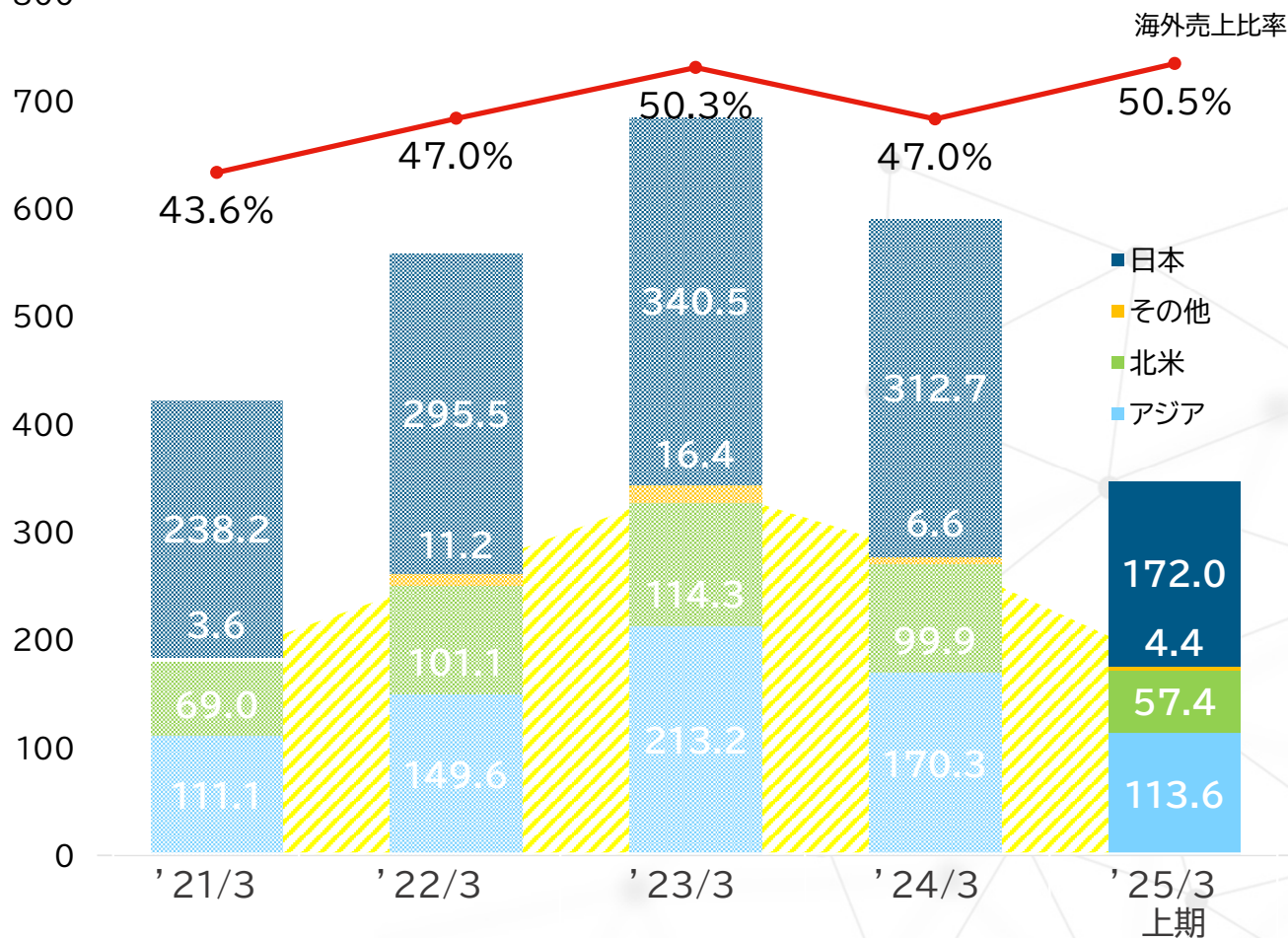
(単位：億円)



海外売上高推移



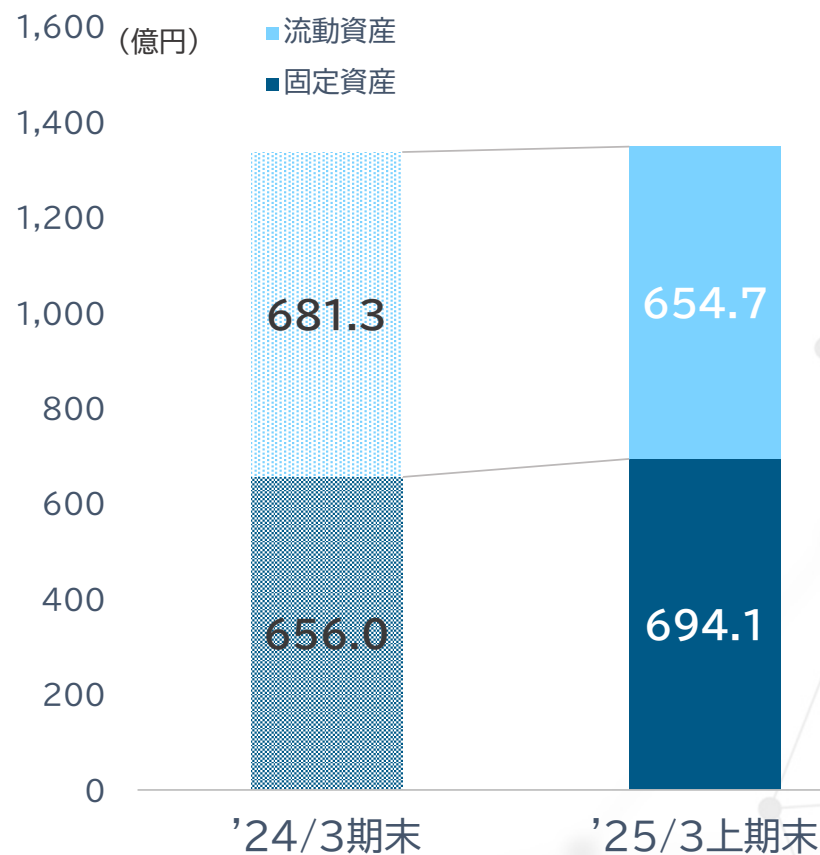
グラフ内数値
売上高(億円)



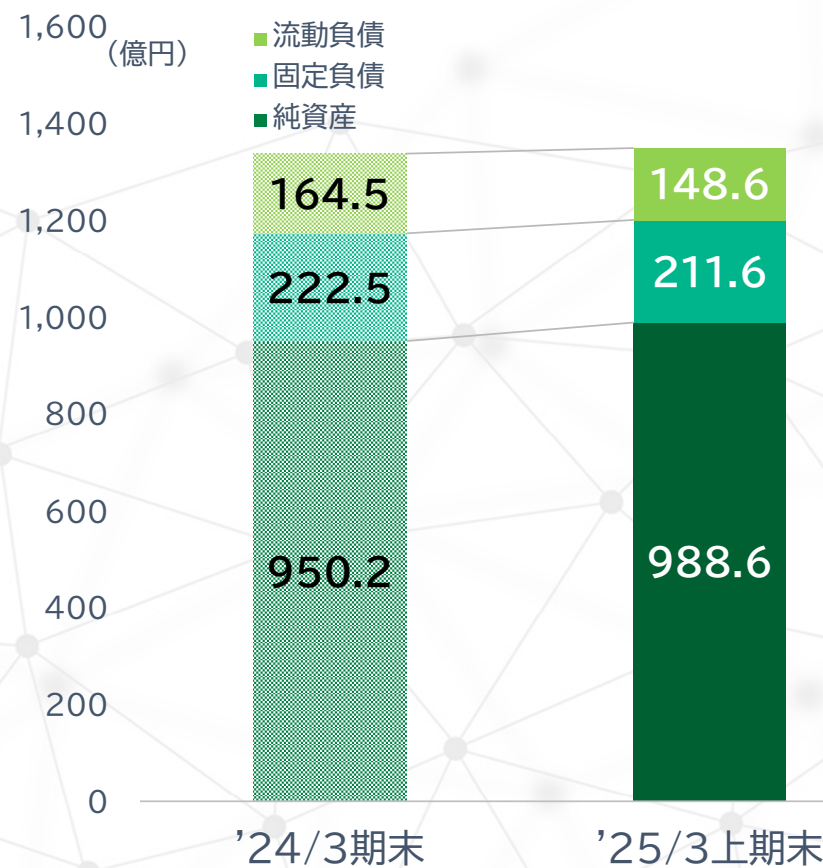
資産・負債・純資産の状況



資産



負債・純資産

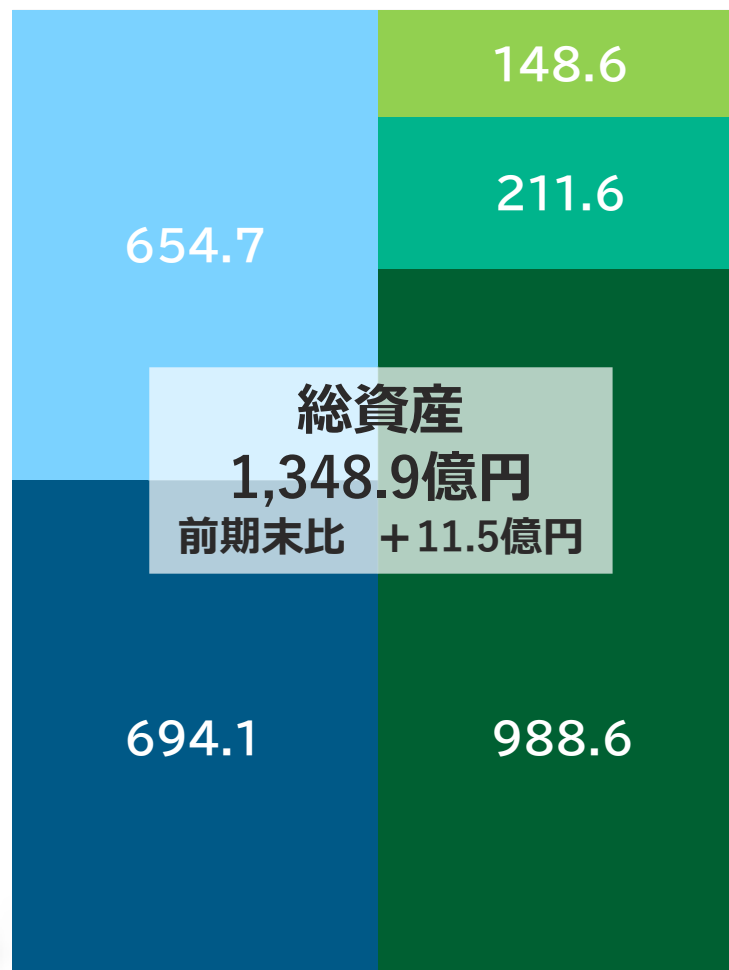


連結貸借対照表



流動資産 (前期末比 △26億)	
・ 棚卸資産	△10億
・ その他	△17億

固定資産 (前期末比 +38億)	
・ 建物および構築物	+6億
・ 機械装置および運搬具	△17億
・ 建設仮勘定	+53億



流動負債 (前期末比 △15億)	
・ 支払手形および買掛金	+8億
・ 長期借入金(1年内返済)	+11億
・ 設備関係未払金	△47億
・ 未払法人税等	+8億
固定負債 (前期末比 △10億)	
・ 長期借入金	△11億

純資産 (前期末比 +38億)	
・ 利益剰余金	+44億
・ 為替換算調整勘定	△5億

キャッシュフローの状況

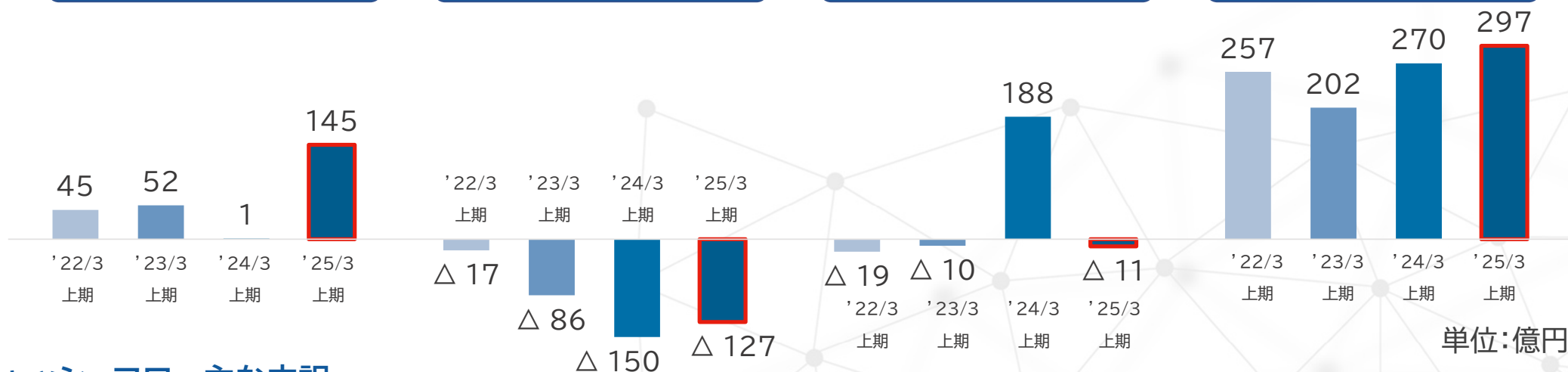


営業キャッシュフロー

投資キャッシュフロー

財務キャッシュフロー

現金及び現金同等物 期末残高



■ キャッシュフロー主な内訳

営業活動によるキャッシュフロー

・ 税金等調整前当期純利益	+ 80
・ 減価償却費	+ 37
・ その他	+ 16

投資活動によるキャッシュフロー

・ 有形固定資産の取得	△ 122
・ その他	△ 3

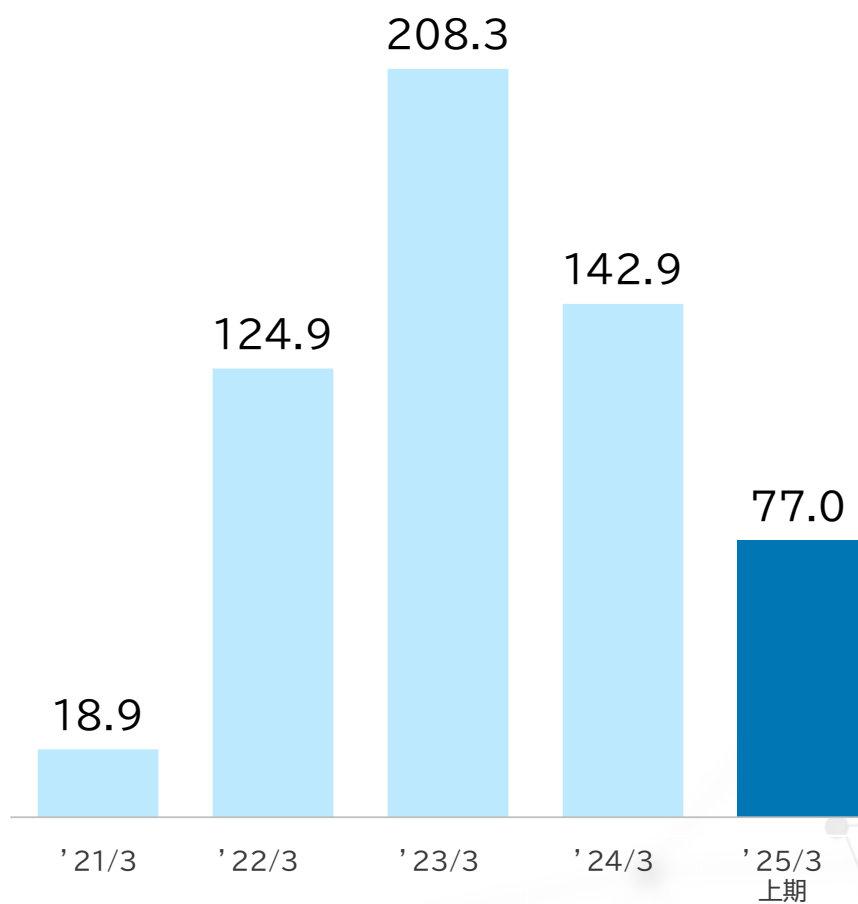
財務活動によるキャッシュフロー

・ 配当金の支払	△ 11
----------	------

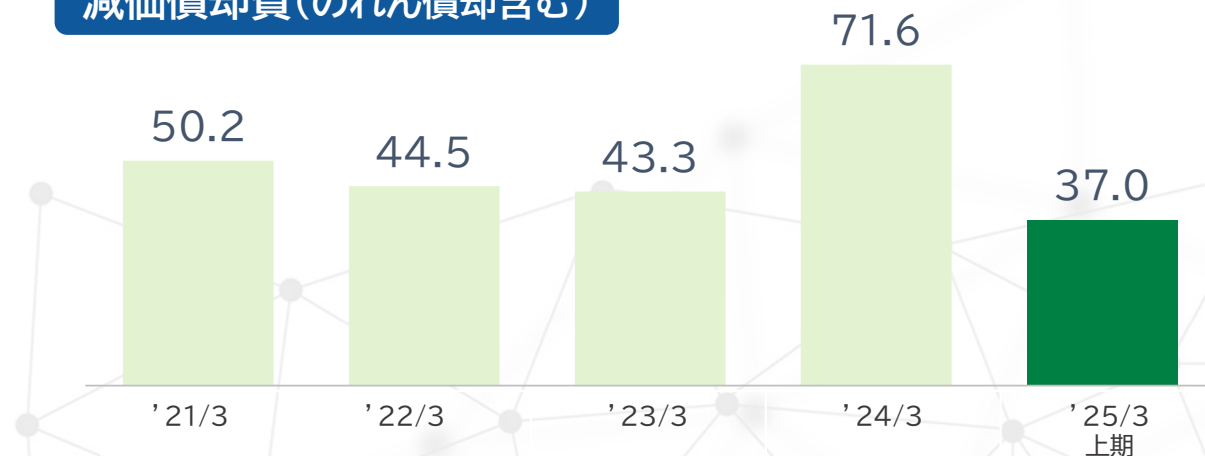
設備投資額・減価償却費・研究開発費推移



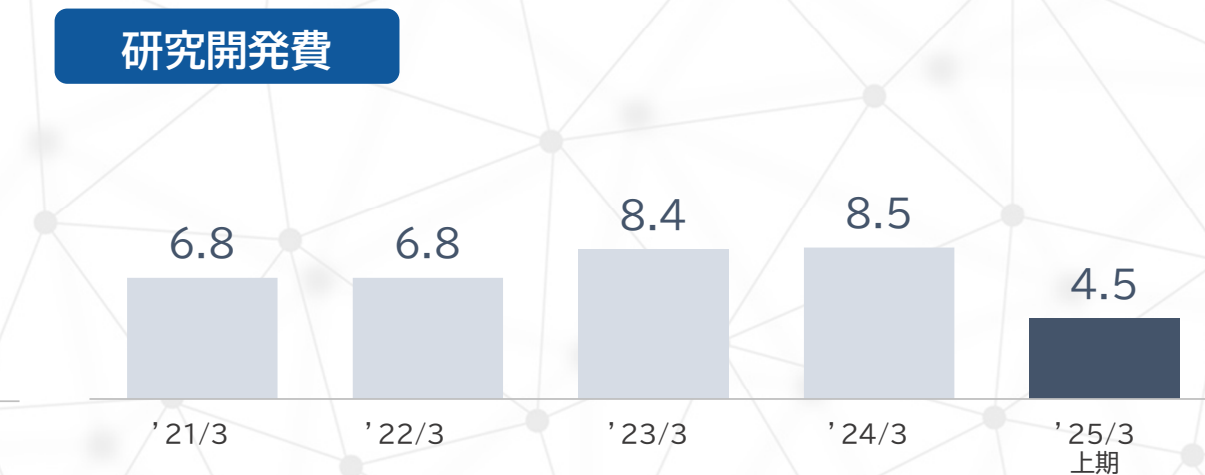
設備投資額



減価償却費(のれん償却含む)

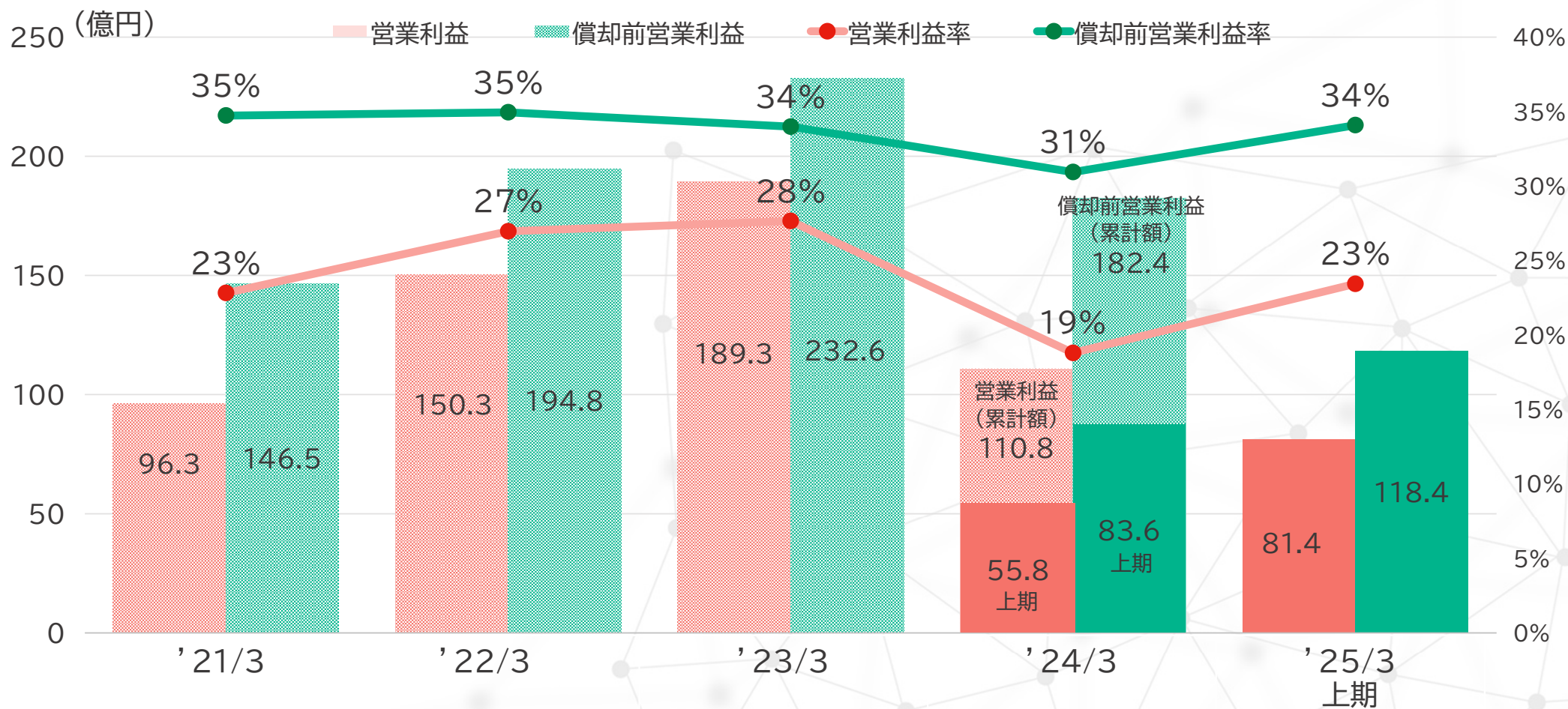


研究開発費



(単位:億円)

償却前営業利益推移



Ⅱ. 事業の概況

ライフサイエンス事業

FUSO CHEMICAL

事業内容



ライフサイエンス事業



- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料および 機能性化学品事業



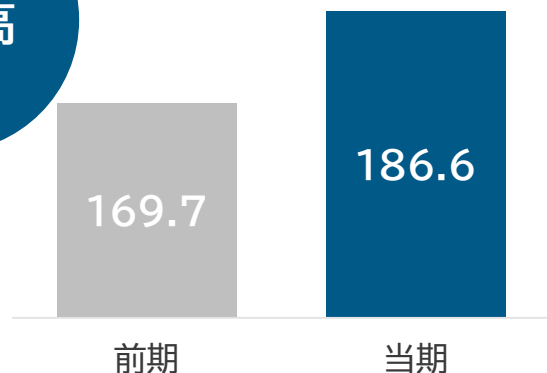
- シリカ関連誘導品
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート
- その他機能性化学品



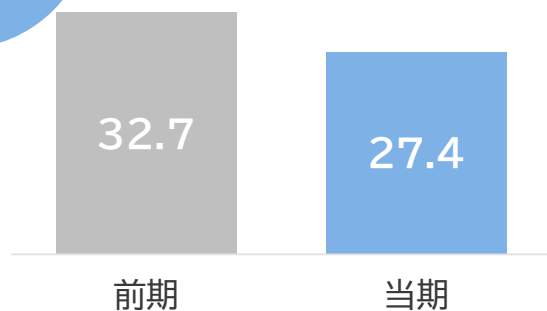
ライフサイエンス事業部 上期概況



売上高



営業利益



(単位:億円)

売上高 増減要因

+	食品向け販売	需要回復、安定的に推移、中国国内販売増加
	国内工業用途	金属メッキ関係が復調
	海外輸出の物量増	前年比2桁増
	為替の影響	フォーミュラ製品の販売価格アップ 子会社外貨建て売上高の円換算増
-	価格改定	リンゴ酸輸出価格1割減 国内市況価格に応じた価格改定
	販売低調	有機酸等の一次産業向け原料販売2割減

営業利益 増減要因

+	入浴剤	フマル酸:大手顧客でのシェアアップ
	医薬品ビジネス	ビタミン類で前年比20%物量増
-	為替の影響	円安による国内外貨建て仕入価格1割アップ
	価格改定	リンゴ酸輸出価格1割減
	水光熱費	国内前年比2割アップ
	稼働日数	例年より長めの定期修繕

概況と施策



I. 重点製品

- 1 リンゴ酸類
- 2 クエン酸類
- 3 グルコン酸類
- 4 フマル酸類・マレイン酸類・ビタミンC類



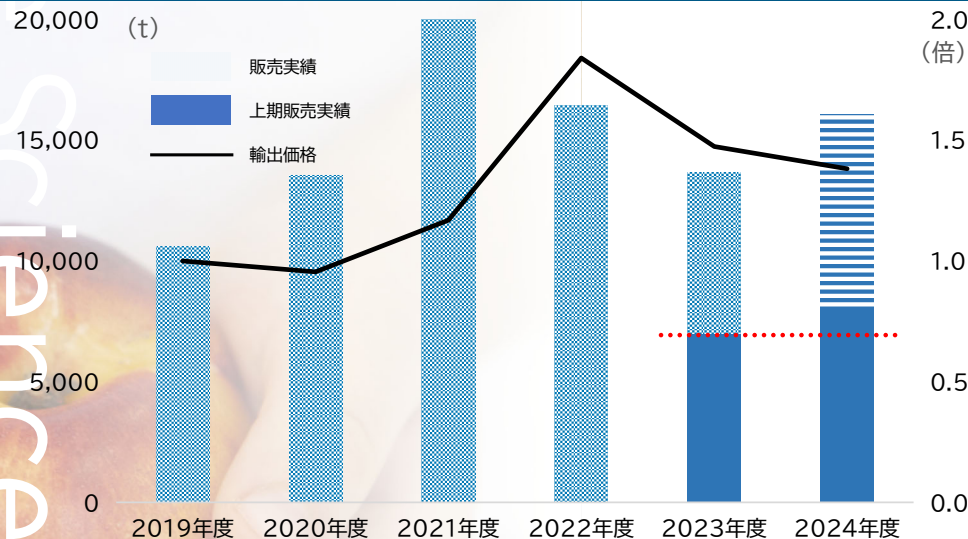
II. 次世代製品

- 1 FFAビジネス
- 2 コート果実酸・応用製剤

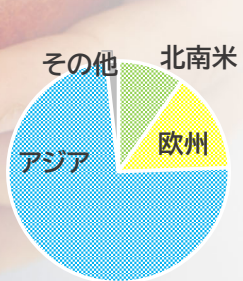


I-1. リンゴ酸類

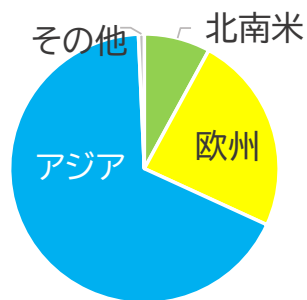
■ 販売数量推移



■ 海外地域別販売



2023年上期



2024年上期



■ 2024年度計画

【国内】

- 輸入品の動向を注視し適正価格での販売を維持
- 液体品の拡販

【海外】

- アジア市場でのシェア維持、需要回復による数量増
- 戦略的価格対応による欧米での物量奪回
- 新規販売国で販売網の強化及び営業展開



■ 2024年度上期

【国内】

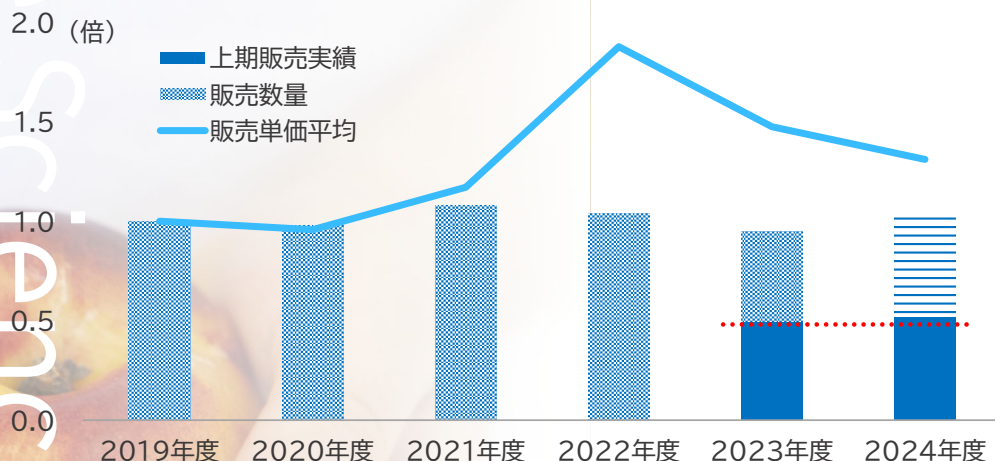
- 食品向けは堅調に推移
- 工業用途(メッキ・洗浄剤)の数量増

【海外】

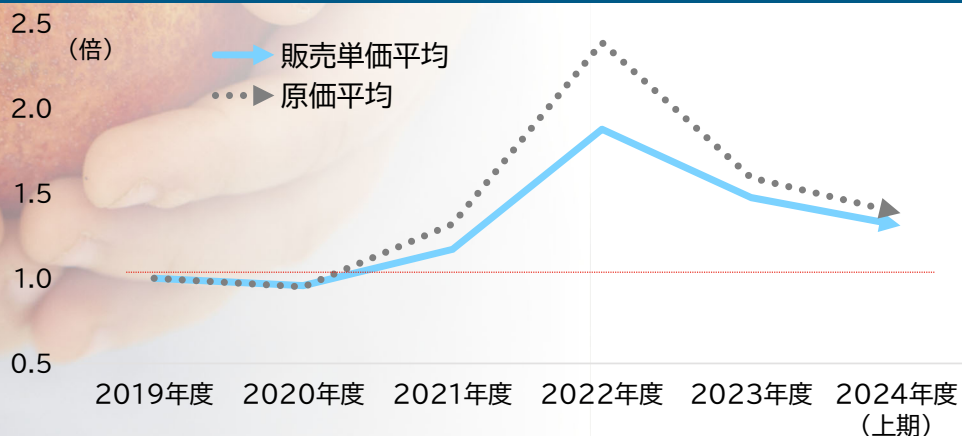
- 輸出販売量の2割アップ
- 競争激化により販売価格の1割下落(ドル価格で2割)

I-2. クエン酸類

■ 販売数量推移（※国内クエン酸類）



■ 販売単価と原価の推移



■ 2024年度計画

- ・ 市況価格の動向に迅速に対応し、シェア拡大
- ・ 価格改定により、中堅顧客のロスト先への営業強化
- ・ タイメーカーとの関係強化による、重点販売
- ・ 大手飲料・大口洗剤メーカー向け数量奪還
- ・ 超高純度クエン酸の内製化/販売開始

■ 2024年度上期

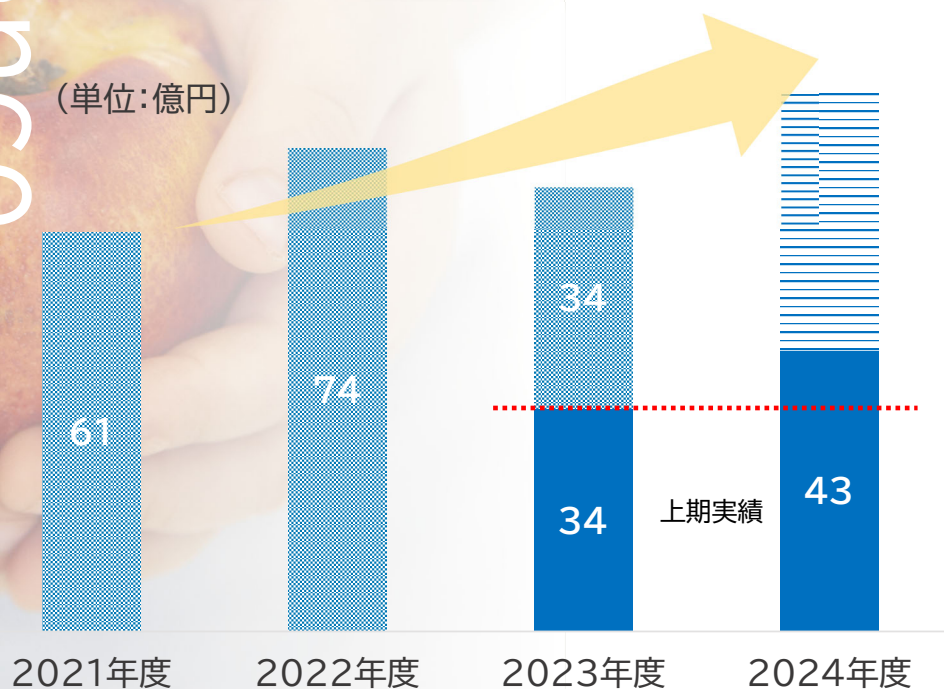
- 市況価格に合わせて15%価格ダウン
販売数量5%アップ
- 工業用途(家庭用日用品ほか)物量20%回復
- 飲料関係は一部顧客への入札不調で物量1割ダウン
- チャイナリスクに対応し、タイメーカーとの関連取引増加
- 超高純度クエン酸 設備10月完成
2025年1月～ 製造開始予定

I-3. グルコン酸類

■ PMP売上推移



(単位:億円)



■ 2024年度計画

【国内】

- ・ 工業用途でのシェア回復
- ・ 価格スプレットの確保

【海外】

- ・ 拡大したキャパの活用
- ・ 柔軟な価格対応による、数量回復

■ 2024年度上期

【国内】

- 大型公共工事がなく、GNA数量1割減
- 陥没価格是正によって販売価格2割アップ
- 仕入コスト3割アップ(仕入価格・円安)で利益率減少

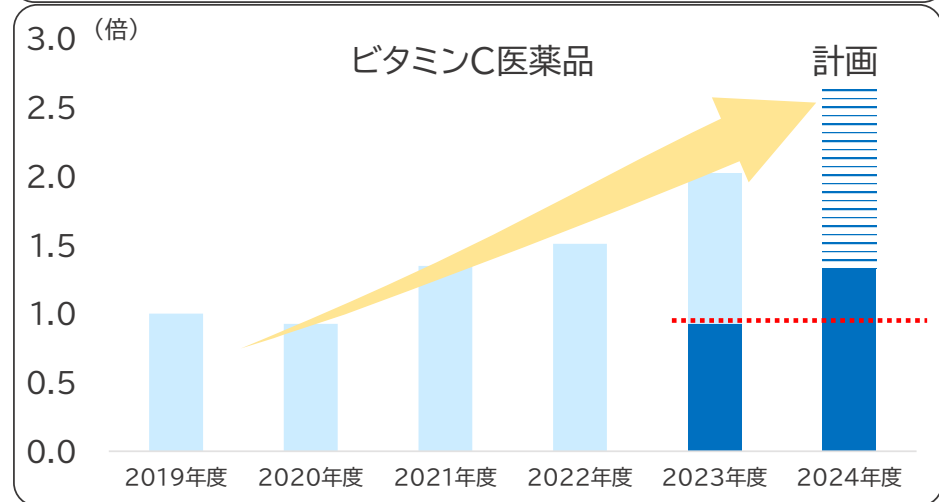
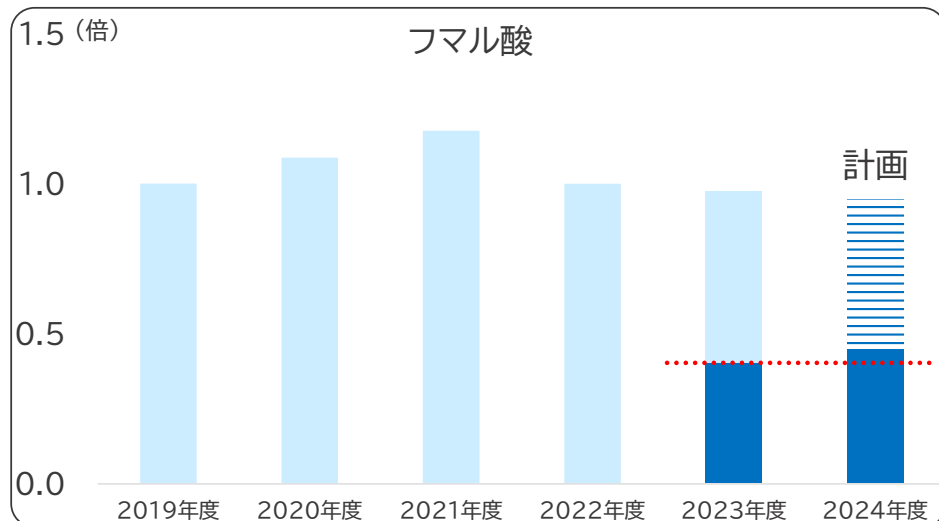
【海外(アメリカ子会社PMP社)】

- 物量1.5倍奪取だが、販売価格10%ダウン

I-4. フマル酸・マレイン酸・ビタミンC類



■ 販売数量推移



■ 2024年度計画

【フマル酸・マレイン酸】

- ・ 大手顧客でのシェア維持
- ・ 製販バランス調整による利益最大化
- ・ 需要縮小業界(紙、塗料、住設)での大口顧客確保

【ビタミンC類】

- ・ 増産及び外注による供給体制の構築
- ・ メインユーザーへの販売増、需要取り込み
- ・ リソースを活かした一般用/医療用医薬品へ提案促進

■ 2024年度上期

【フマル酸・マレイン酸】

- 物量: 前年比で2割増
- 価格: フォーミュラ(原料高)に加えスプレッドの改善

【ビタミンC類】

- 販売物量: 4割アップ 医薬用途で大幅物量増
- 飲料向け物量2桁アップ

Ⅱ. 次世代製品



1 FFAビジネス

- ◆ 新製品の販売拡大
- ◆ 比類なき新製品上市
- ◆ FFA設備のフル活用
- ◆ ストレスフリー製剤ビジネス拡大

(コート果実酸、米飯向け製剤、酸化防止製剤、褐変防止製剤)
(粉末酢酸、易溶化フマル酸、グルテンフリー食品向け製剤等)
(大阪工場)

2 コート果実酸・応用製剤

機能性果実酸(Functional Fruits Acid)

食品添加物製剤

(Formulation of Food Additives)

食品素材・食品添加物製剤

(Formulation of Food Materials and Food Additives)

機能性食品素材・食品添加物

(Functional Food Material and Food Additive)

機能性果実酸

(Functional Fruits Acid)

Ⅱ-2. コート果実酸・応用製剤



		2024年度計画	2024年度上期
日持ち向上剤	ランチフレッシュR	- 大手コンビニエンスストア、外食関連、弁当関連で営業展開を拡大し新規獲得を目指す - 現製品の問題点を抽出し、改良版を検討 - 各ユーザーでの評価結果を元に問題点の抽出 - カタログやデータ類の見直し	3社で採用 - 顧客方針変更のためペンディング案件あり - 各ユーザー評価より、他社製剤との価格差が課題 - 目標数量 進捗1桁%
	販売目標100㍑以上		
コート果実酸	M80・M95(リンゴ酸) C80・C95(クエン酸) V80(ビタミンC)	- キャンディー、飴、グミ他大手菓子メーカーへ継続ワーク - 有機酸のコート技術を応用した新規獲得 - GDL膨張剤・日持ち向上剤の提案 - ハラル対応等で海外市場を開拓 - 耐熱化や水溶化の付与した新タイプ品の開発	7社で採用／海外では価格差のため採用されず - 製品ラインナップ1種プラス(G70)(GDL) - 目標数量 進捗1桁%
	販売目標100㍑以上		
酸化/褐変防止剤	キプカロンFR・T (変色防止剤)	10社で提案中、早期採用を見込む - ネギトロでの評価良好で採用予定	10社で提案、結果6社採用 - ネギトロでの採用2社
	オキシナジー (VC・VE製剤)	- 従来品に比べ抗酸化力が強く麺用途で採用見込み - スナック菓子、チョコレート業界での採用目標	2社で採用 - スナック菓子、チョコレート業界での採用1社
マス킹剤	フレバランサーGS		3社で採用、レトルト臭向け番手も開発中
バイオスティミュラント ストレスフリー製剤		- 国内イネ栽培面積は140万ha:高温障害北陸地方中心に50万haで、ストレスフリーとして100㍑/yの潜在市場 - 芝・イネ以外での採用	2社で採用 - 芝・イネ以外に、新たに果樹用途でワーク中

Ⅱ. 事業の概況

電子材料および機能性化学品事業

FUSO CHEMICAL

事業内容

ライフサイエンス事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料および 機能性化学品事業

- シリカ関連誘導品
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート
- その他機能性化学品



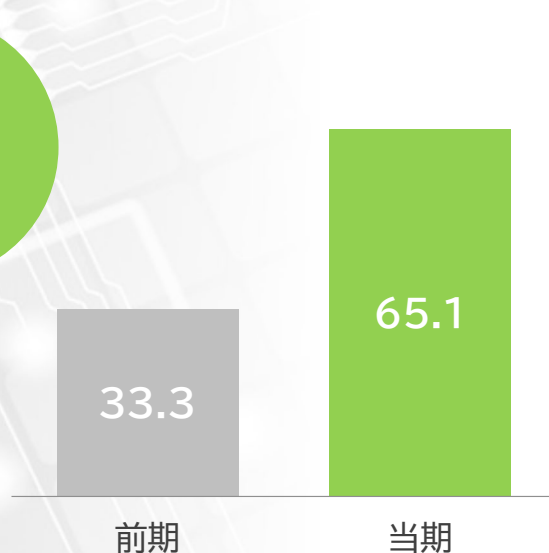
電子材料および機能性化学品事業 上期概況



売上高



営業利益



(単位:億円)

売上高 増減要因

+	販売物量	・ 市況回復に伴い前年比約1.5倍 ・ 最先端半導体向け活況 データセンター(AI)向け急伸 ・ 中国市場拡大
	高付加価値製品販売	3nm node向け販売増
	為替の影響	円安による売上増効果

営業利益 増減要因

+	販売物量	売上増に伴い利益増
	稼働率向上	生産物量の増加
	為替の影響	円安による売上増効果
-	償却費	鹿島事業所の新設備償却費増加
	物流費	出荷数量増に伴う増加
	コスト増	人件費・研究開発費

概況と施策



I. 電子材料
セグメント
(超高純度コロイダルシリカ)

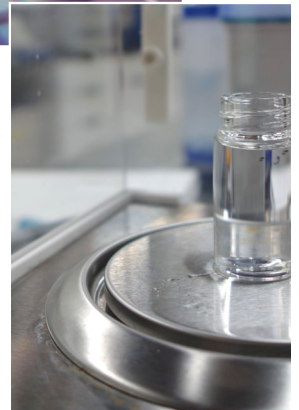
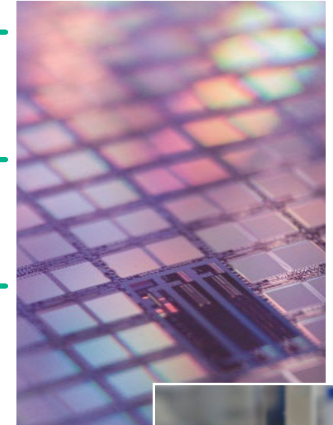
- 1 販売
- 2 生産・技術
- 3 製品開発

II. 機能材料
セグメント

- 1 シリカ機能性材料
- 2 その他機能性材料

III. 外部環境への
対応

- 1 購買/物流/営業
- 2 BCP
- 3 中長期的対策



I. 電子材料セグメント



2024年度 見通し



2024年度 上期進捗

- 2024年度以降、主要半導体メーカーの設備投資完成予定
- 2022年度3Qから続く、半導体産業の調整局面から2024年度後半には回復し、対前年比プラス成長を見込む

- 販売・生産量は増加
- 一部半導体メーカーの設備投資に遅れはあるものの、将来の需要量増に応える設備増強・認定作業継続
- 用途・地域ごとに回復状況はまばら模様
本格的な回復は2025年になる見通し

地政学的リスク

- グローバルでのサプライチェーンの見直し
- 各国の半導体自国生産に対応するため
スラリーメーカーとのコミュニケーション促進

- 原料サプライチェーンの停滞・途絶リスクに備え、
複数ソースの確保を検討
- 中国向け販売増

最先端半導体技術開発

- データ量の増加に伴う需要増
- 自動車などの半導体需要も市況調整局面後、
再拡大の予想
- 最先端3nm nodeに向け安定供給
- 次世代2nm nodeは、2025年量産開発を推進

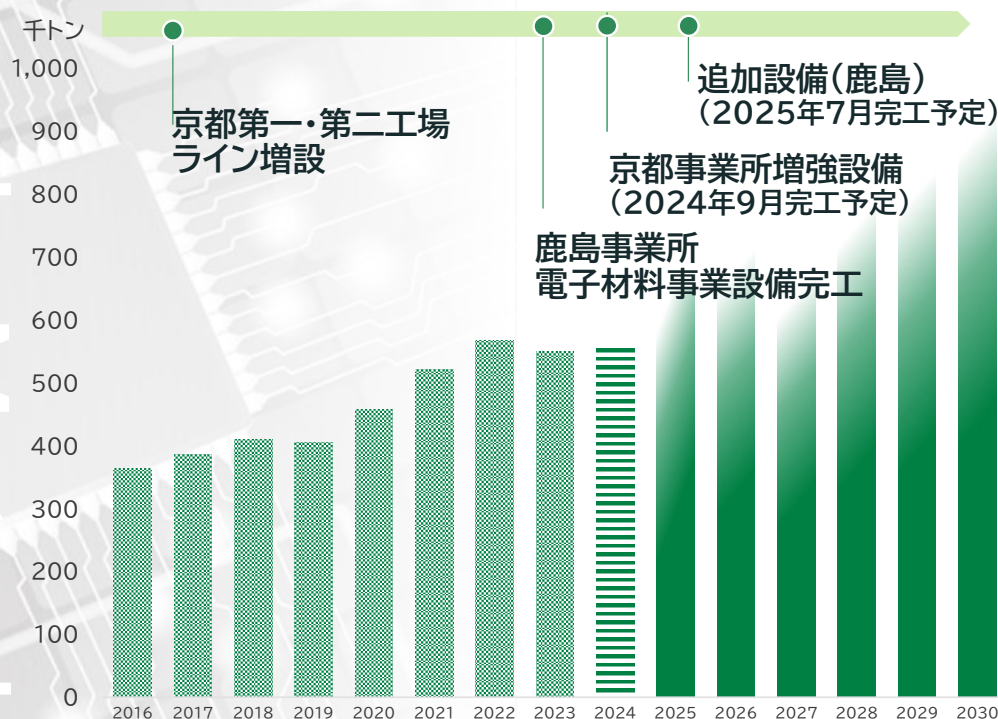
- データセンター向け製品増
- 次世代2nm node向け製品認定継続
- Beyond 2nm開発着手

I-1. 販売 成長を続ける半導体市場

2023年に一時的な調整局面を迎えたことにより、
遅れを生じたものの変わらず長期的成長を見込む
(2022-2030 CAGR 約8%)

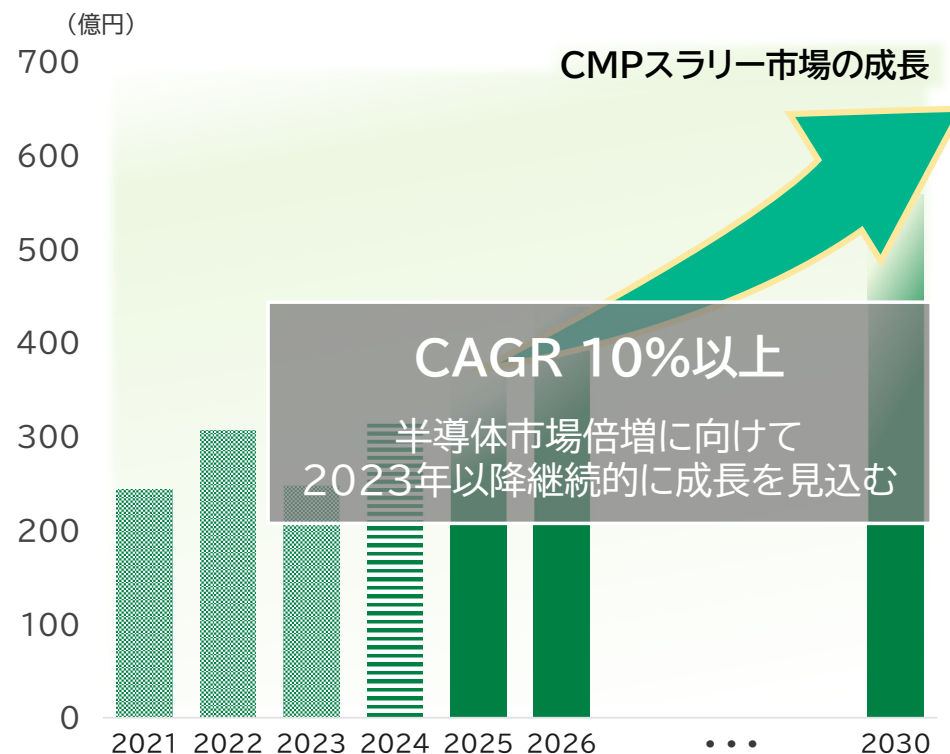


需要の拡大に応えることができる
生産能力と技術開発体制づくり



■ CMPスラリー市場規模予測

※各社の情報より当社で作成



■ 電子材料事業の売上目標

Copyright © FUSO CHEMICAL CO., LTD. | 31

I-2. 生産・技術 増産/安定生産/設備技術/品質



	2024年度 計画	2024年度 上期
増産	- 鹿島事業所の安定稼働 - 京都設備の確実な立上げ - 鹿島Ⅱ期工事の進捗管理	- 鹿島事業所生産品において、複数社で認定完了、及び販売開始(→①) - 京都事業所における追加設備予定通り完工(→②) - 鹿島Ⅱ期工事は予定通り25年7月完工予定(→③)
安定生産	- 計画的な設備修繕の実行 - 市場動向に合わせた生産計画	- 計画通り実行済み - 当初計画比10%増生産 - 鹿島品 安定稼働にむけ準備完了
品質	- 粗大粒子数低減プロセスの確立 - 最先端プロセスの品質要求への対応	粗大粒子数低減グレードを開発し顧客評価へ
設備技術	- 設備の省エネルギー化検討 - 環境課題への取り組み - 製造工程の省力化/自動化検討	構想立案済み 実行に向け精査中

①～③の投資により、
2022年度比設備能力
約1.5倍



① 鹿島事業所 (I期)

2023年4月完工

投資額 198億円 支払済み
(2023年8月～減価償却開始)



② 京都事業所

2024年10月完工

計画投資金額 約100億円
(うち97億円支払い済み)



③ 鹿島事業所 (II期)

2025年7月完工予定

計画投資金額 約200億円
(うち94億円支払い済み)

I-3. 製品開発



高濃度コロイダルシリカ

顧客ニーズを満たす
付加価値の高い製品

2024年度 計画

効率的な生産で
キャパシティを確保

2024年度 上期進捗

- 高濃度コロイダルシリカグレード開発継続
複数グレードで顧客評価実施中



最先端CMP向け コロイダルシリカ

シリカ表面修飾
粒度分布の狭小化

beyond 2nm世代
の技術課題の克服に
向けた顧客との綿密
な連携強化

- 顧客要望を踏まえた製品開発を実施中
- CMPの国際技術会議(ICPT2024)にて
狭小化に関する技術報告を実施



新コンセプト粒子

SiC等新素材向け砥粒

新しいビジネスの
獲得に向けて
コンセプトから
製品開発のステップへ

- 新素材向け砥粒コンセプト性能検証中

Ⅱ. 機能材料セグメント



2024年度 計画

2024年度 上期進捗

シリカ機能性材料

トナー外添剤用途

- ・ 新規採用

- 新規採用にむけた顧客評価継続中



低誘電材用途

- ・ 中空シリカの量産化
- ・ フィラー用への展開

- 量産化検討中
- 採用に向け顧客評価継続中



新規用途

- ・ 化粧品、医療、バイオ等用途

- 化粧品用途での顧客評価開始

中長期的市場開拓

- ・ 多孔質シリカ・シリカナノシート・コアシェルシリカ等新技術の市場探索

- 展示会等を通じ、市場探索継続中



その他

- ・ 既存機能性化学品の供給継続
- ・ その他、設備更新をしつつ、市場及び供給維持

- PTBBAの国内市場は縮小、価格競争激化

Ⅲ. 外部環境変化への対応



2024年度 計画

2024年度 上期進捗

購買/物流/営業



- 生産能力増強に伴う、調達量増
- 円安の影響(原材料コストほか)
- コスト増への対応:効率化、販売価格への転嫁
- 購買リスクの抽出と対策、出荷拠点の拡充・整備



- 生産量に応じた原料調達量確保
- 将来の購入数量増に対応すべく、サプライヤーとの連携を強化

BCP



- 京都/鹿島事業所 3工場、2拠点生産体制
- 地政学的リスクの分散(原材料購入国の分散)
- (拠点間)BCPプラン策定、更新



- 試作認定が進行、一部量産ステージへ移行
- 2拠点生産体制／複数購買体制の確立

その他



- 2030年を見据えた中長期設備計画の精査
- 中国市場向けコロイダルシリカの展開
- SDGsを企図した商品開発を実施
- 新規開発品の早期投入



- 次期投資計画の検討
- 中国市場への展開継続
- 中国国内での品質保証体制の立上げ
- 高濃度・高研磨レートコロイダルシリカの拡販継続

Ⅲ. 2025年3月期 業績予想

FUSO CHEMICAL

業績予想



為替

コスト

前提

2025年3月期
当初前提

• 1\$ = 145円

水光熱費

高止まり

原材料費

緩やかに
高騰

ベンゼン

前年より
1割UP

- ・ 半導体市場の緩やかな回復
- ・ 海外市場での販売巻き返し
- ・ 海外子会社での販売強化

2025年3月期
予想

• 1\$ = 145円

高止まり

比較的
安定

前年より
1割UP
(4-11月実績)

- ・ 地域・顧客ごとに回復スピードのばらつき
- ・ 海外市場でのシェアアップ
- ・ 稼働率のアップ

2025年3月期 業績予想

売上高

営業利益

当期純利益

償却前営業利益

当初
計画

650億円

当初
計画

111億円

当初
計画

74億円

当初
計画

195億円

+4%

+21%

+21%

+12%

680億円

135億円

91億円

218億円

業績予想



(単位:億円)	上期実績			通期業績予想		
	2025年3月期 上期	前年対比	2024年3月期 上期	2025年3月期	前年対比	2024年3月期
売上高	347.5	28.1% ↑	271.3	680.0	15.3% ↑	589.7
■ ライフサイエンス事業	186.6	10.0% ↑	169.7	366.0	7.2% ↑	341.4
■ 電子材料および 機能性化学品事業	160.8	58.4% ↑	101.5	314.0	26.5% ↑	248.2
営業利益	81.4	45.9% ↑	55.8	135.0	21.8% ↑	110.8
■ ライフサイエンス事業	27.4	△16.3% ↓	32.7	55.5	△1.5% ↓	56.3
■ 電子材料および 機能性化学品事業	65.1	95.7% ↑	33.3	102.5	36.1% ↑	75.3
(調整額)	△11.1		△10.2	△23.0		△20.8
経常利益	79.4	27.3% ↑	62.4	137.0	15.3% ↑	118.8
当期純利益	56.0	30.8% ↑	42.8	91.5	9.7% ↑	83.4
償却前営業利益	118.4	41.6% ↑	83.6	218.5	19.8% ↑	182.4
1株当たり 当期純利益	159.0円	30.8% ↑	121.6円	259.5円	9.7% ↑	236.7円

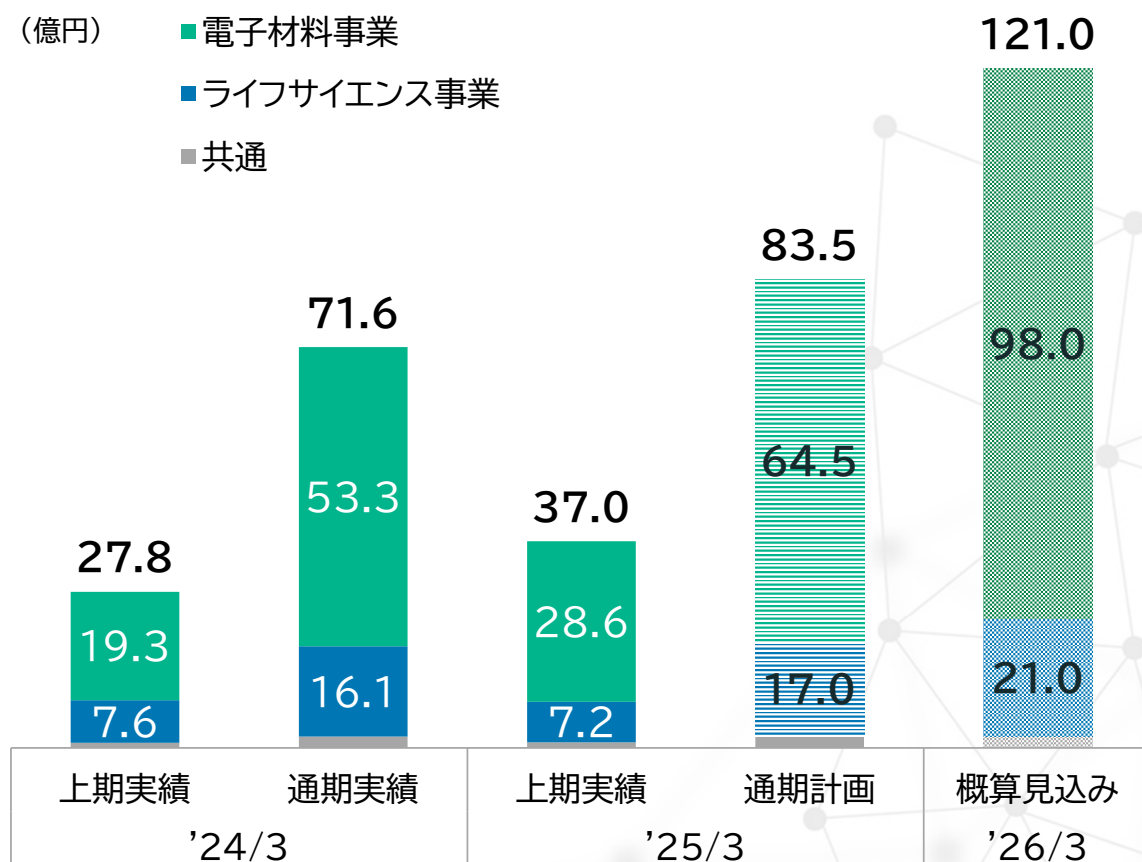
減価償却費見込み



セグメント別償却費

(億円)

- 電子材料事業
- ライフサイエンス事業
- 共通



2024年3月期

- ・ 鹿島事業所
超高純度コロイダルシリカ新設備【第1期】
- ・ PMP社グルコン酸類新設備
- ・ 本社移転

2025年3月期

- ・ 鹿島事業所新事務所棟
- ・ 京都事業所
超高純度コロイダルシリカ新設備

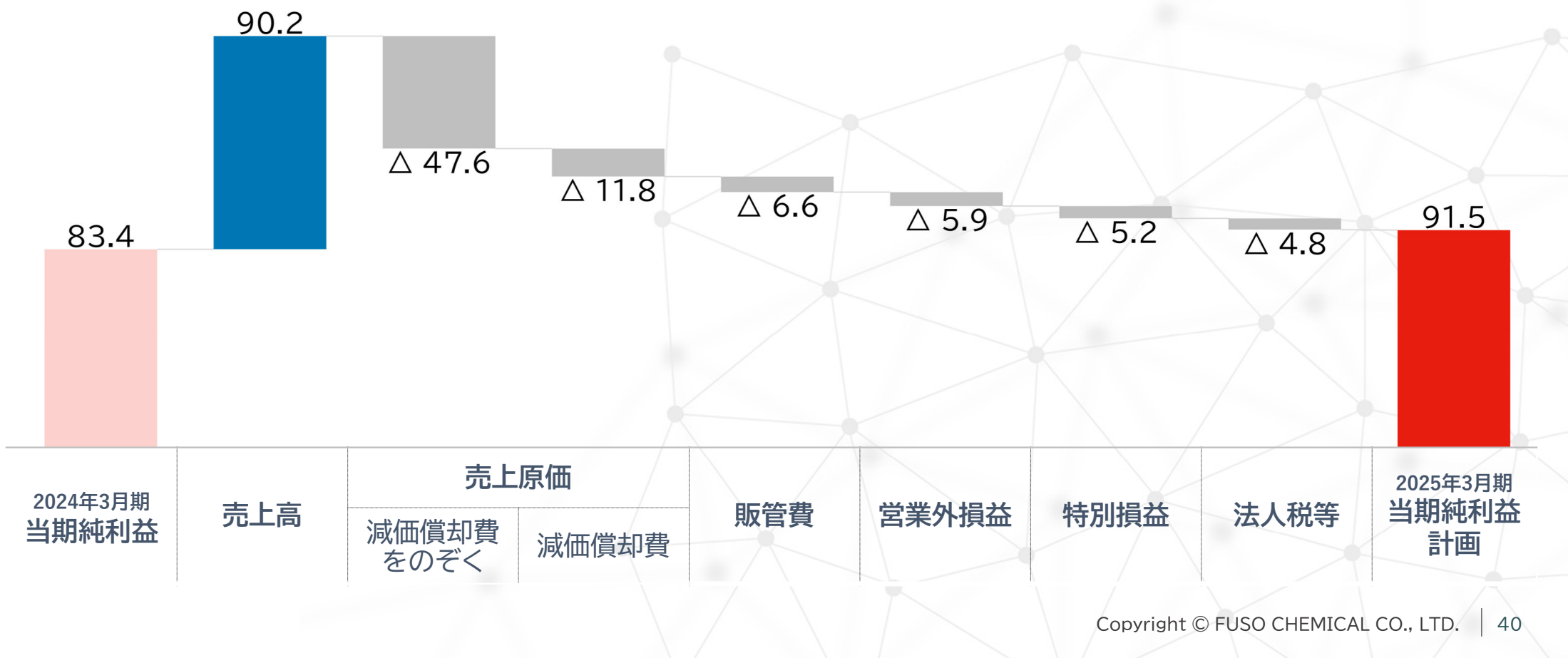
2026年3月期

- ・ 鹿島事業所
超高純度コロイダルシリカ新設備【第2期】

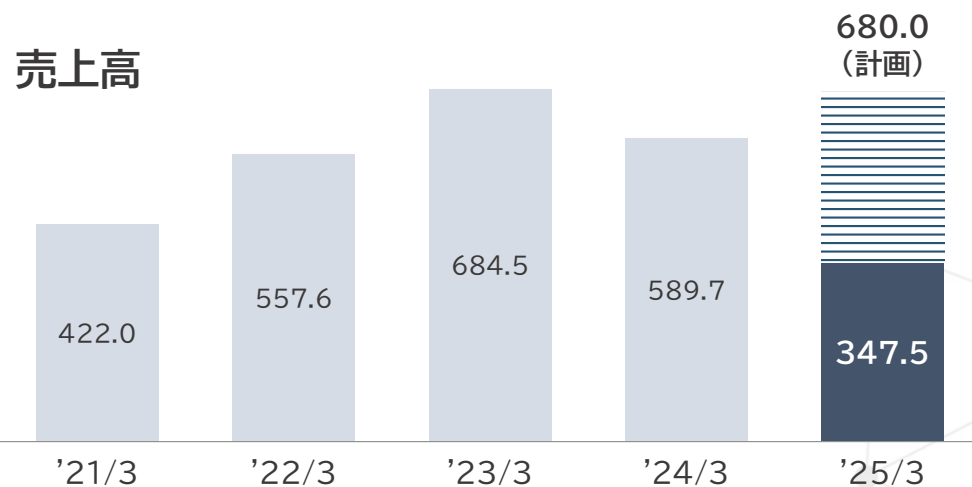
2025年3月期計画 当期純利益増減要因



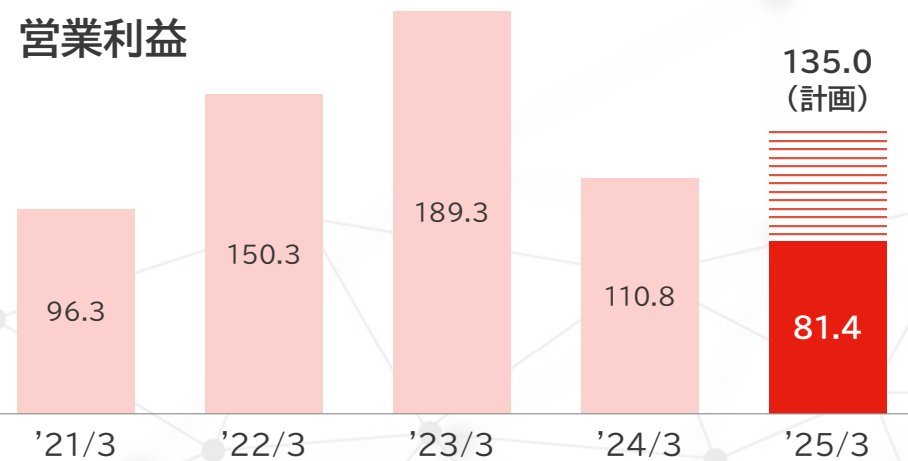
(単位：億円)



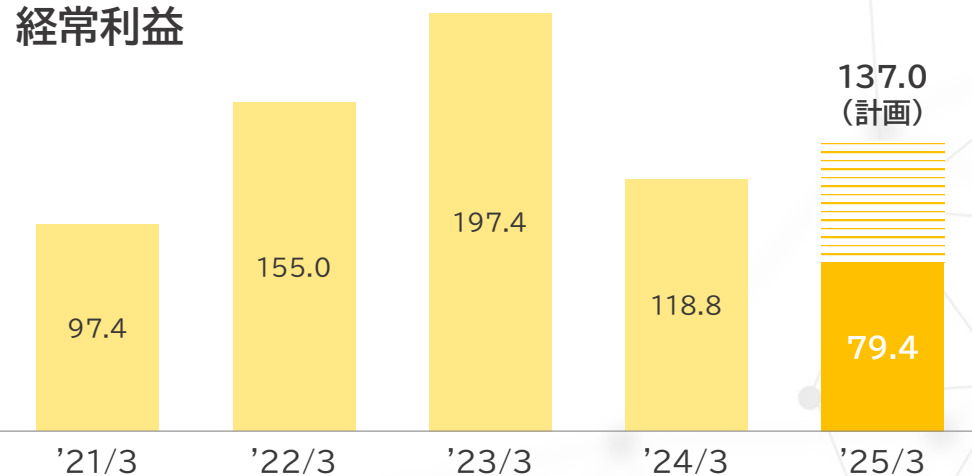
業績推移および予想



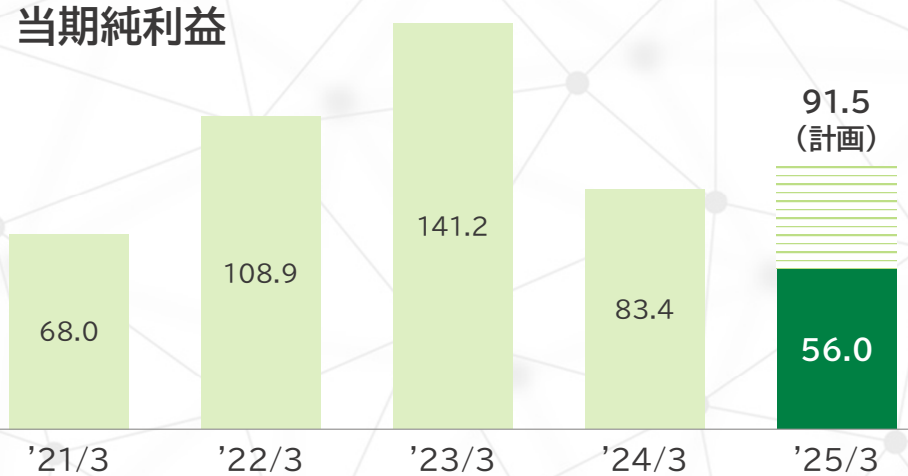
営業利益



経常利益



当期純利益



単位:億円

Copyright © FUSO CHEMICAL CO., LTD.

サステナビリティ



2023年度報告書 公開 2024年10月

事業の成長とともに持続可能な社会の実現に向けて取り組む当社の活動状況を、毎年更新し開示



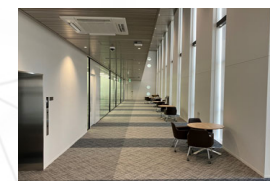
2024年度 構成銘柄 2024年8月

昨年に引き続き、構成銘柄に選定
資本の効率的活用や投資者を意識した
経営観点など、グローバルな投資基準に
求められる諸要件を達成



鹿島事業所 事務所棟 2024年6月

大きな窓のエントランスや吹き抜けホール、解放感のあるスペース
広々とした執務室、食堂や休憩室等、
社員が快適に過ごせるように環境整備



FUSOフェスタ 2024年6月

京都事業所にて開催
従業員とその家族、お友達、地元の方が参加



科学実験教室 2024年8月

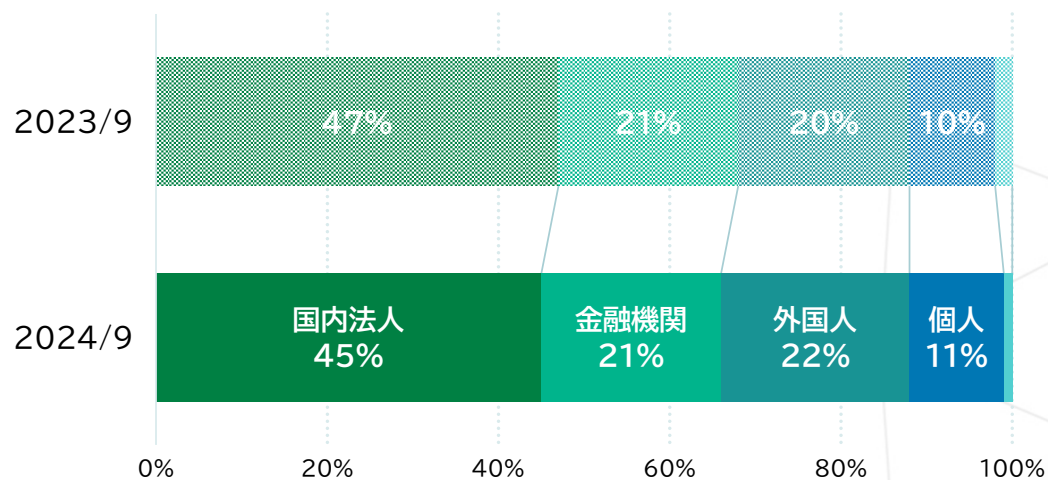
株式会社オレンジページ協力の下
親子で楽しむ科学教室開催



株式情報



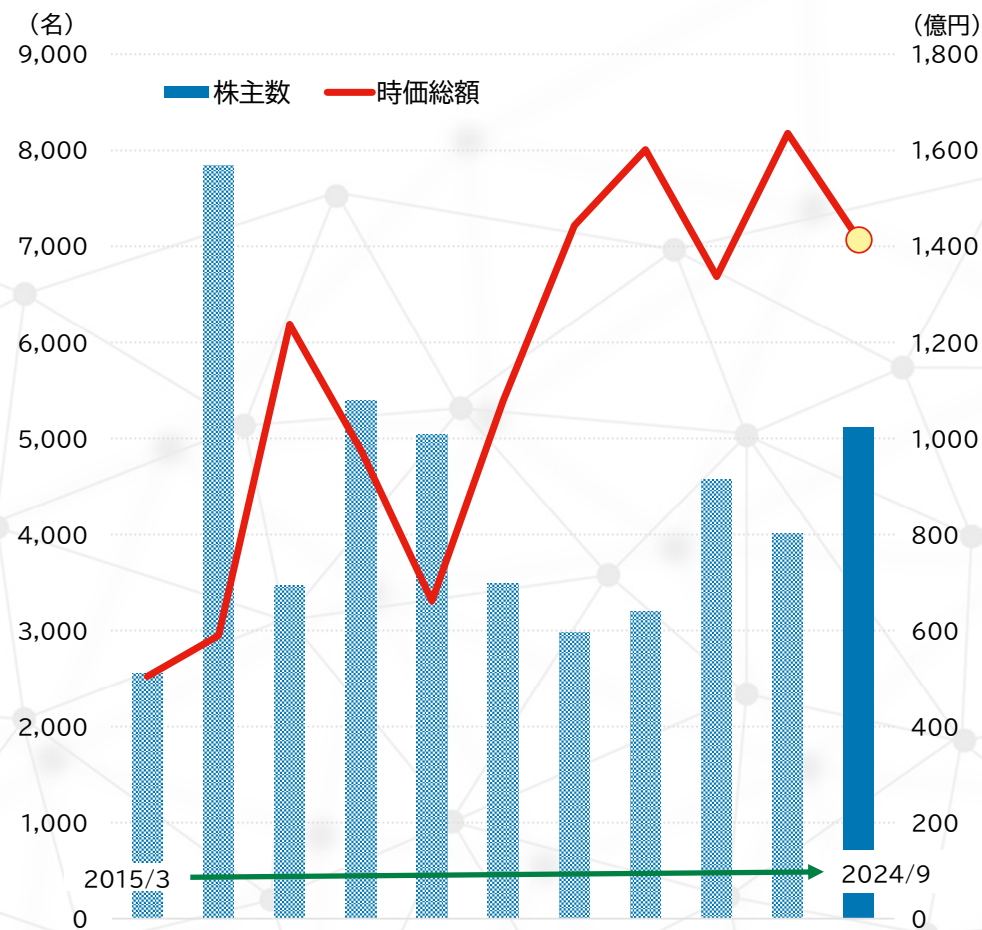
株主構成



政策保有株式数(上場株式)



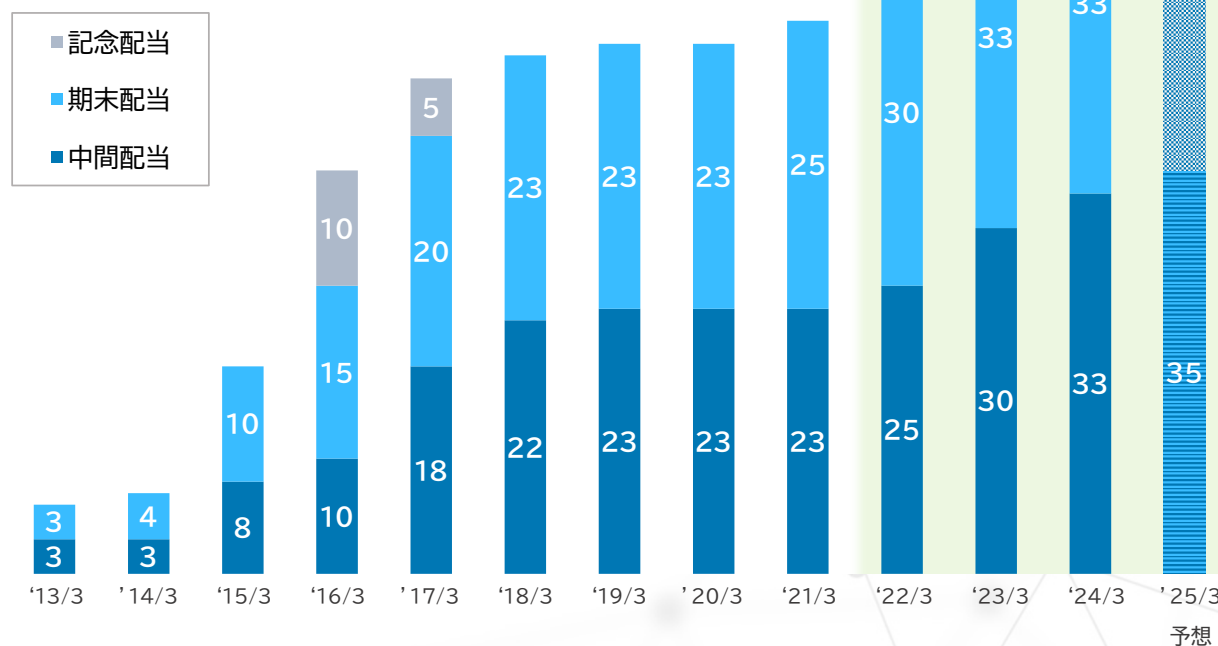
時価総額・株主数



配当金



2024年3月期 実績	普通配当金66円
2025年3月期 当初予想	普通配当金66円
2025年3月期 予想(9月修正)	普通配当金70円 (中間配当35円・期末配当35円)



【変更前】

- 剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております

【変更後】

- 剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるため、累進配当の考え方を採用し、企業価値の向上につとめてまいります

2009年3月期から2025年3月期(予想)まで16期連続配当の維持もしくは増配を実施
当期も含めこの実績を継続していくことを明確にし、一時的な理由による変動を避け、株主様に対する安定的な配当を維持していく目的で、累進配当の考え方を採用

IV. 質疑応答

FUSO CHEMICAL



本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

FUSO CHEMICAL

Chemicals for Human Life
FUSO



FUSO CHEMICAL